

# 歴史探訪

## クラブ! 其の158

History Inquiry Club



文化生涯学習課 ☎ 23局3635  
FAX 22局3811

### 水のありがたさ

水は人々の生活に必要な、命ともいえるものです。昔から人々の住む条件として、水を得る場所が必須でした。

渥美半島は、水に恵まれない半島です。特に水の確保が難しく、深刻だった太平洋沿岸沿いの地区では、かつて雨水を「たたき」と呼ばれる貯水槽のため、大事に使っていました。



▲簡易水道完成記念火鉢

下水が湧き出す水場などで、飲み水などの生活水に利用してきました。田原

した。お風呂はその水を腰がつかれる程度にします。それだけでなく、垢をすくっては何度も沸かしなおし、最終的には水まき用に使うなど、最後の一滴まで大事にしました。これは一例に過ぎません。

そんなことを考えていたら、知り合いから写真の火鉢を紹介していただきました。火鉢の横には、白い下地に竹の葉が水墨画のように簡略に描かれています。また、「昭和三十七年七月 宇津江簡易水道 竣工記念」と書き添えられています。簡易水道とは聞きなれない方もいるかもしれませんが、現在の上下水道が整備される前のものです。

人々は家の井戸、共同井戸、地下水が湧き出す水場などで、飲み水などの生活水に利用してきました。田原



▲高松町に残る「たたき」

市では昭和20年代後半から地下水の水源を利用し、村や地区で組合をつくり、簡易水道の整備が始まっていきます。赤羽根町史にも「飲料水の確保は長い間の懸案事項」とあるように渥美半島の住民共通の悩みだった飲料水の確保。この整備のおかげで安定した水質・水量が確保され、悩みは解消されていったのです。もちろん、この事業を進めるにあたっては地元の方々の大変なご苦労と努力があったことはいまでもなく、その完成の喜びは大きかったに違いありません。写真の火鉢は、この喜びが表された記念品です。また、記念品が火鉢である

ことも、生活に根付いた心配りで、とても温かな気持ちになりました。現在、田原市ではすべて上水道事業となり、一部を除いて豊川用水を水源とする愛知県営水道から受水しているため、簡易水道はその役割を終えています。

家庭でも、畑でも蛇口をひねるだけで水が出る。私たちは豊かな生活を送ることができるようになりました。地元の人が水で苦労した話は、今では想像がつかない遠い昔のものとなっています。だからこそ、これまでに携わった人々や関係者、そして水源地の方々に深く感謝し、水を大切にしたいものです。

(増山)

### 今月の「表紙」

▼一日は、さわやかな朝から始めたいものです。嫌なことがあった日も悩んでしまった夜も、太陽が昇れば誰にでも平等に朝がやってきます。いつもよりちょっと早起きして、まだ冷たくて澄んだ空気を思いっきり吸い込んでみる。すると、体中で感じる「朝」。さあ、私の一日が始まります。

(M) 【表紙の写真】新三河田原駅の朝